

## ISTS スタイルチェックリスト

下記ガイドラインに従い、投稿前に原稿スタイルを確認してください。

- ・書誌情報は削除 (TeXで原稿を作成している場合、`\documentclass[ISTS]{tjsass}`とする。)
- ・ページ番号は不要
- ・論文タイトル：各単語の1文字目が大文字
- ・著者名：Family nameは大文字フォントサイズ10pt, **2文字目以降のフォントサイズ8pt**
- ・第1著者名の前に“By”を入れる。
- ・著者が3人以上の場合、各著者名の間にカンマ、最後の著者名の前は“,” and”とする。  
最後の著者名の後にカンマは不要
- ・著者名の右肩に所属機関の番号を1)のように入れる。1)はカンマの後
- ・所属機関名はイタリック, city nameを忘れず入れること。  
**ただし、県名は不要。東京23区特別区の場合は、Tokyoを入れる。**
- ・キーワード：各単語の1文字目は大文字
- ・アブストラクト開始は4文字インデント
  
- ・記号表：数字順に続きアルファベット順 (A, a, B, b, C, c, …, Z, z) , その後, **ギリシャ文字(でアルファベット順： $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $\gamma$ , …), 添え字も同様**
  
- ・パラグラフ開始は2文字インデント
- ・Major-heading タイトルは、各単語の1文字目は大文字
- ・Major-heading タイトル後の文章は、1行空白行を入れてから開始
- ・Sub-heading タイトルは、最初単語の1文字目だけ大文字
- ・Sub-heading タイトルとMajor headingタイトルの間には1行空白行を入れる
- ・Sub-heading タイトルの開始と1つ前の文章の間には空白行は入れない。  
**ただし、最初のSub-heading は例外とし、1つ前の文章との間に1行空白行を入れる。**  
(Templateファイルの3.1節, 4.1節の例を参照)
- ・heading番号とheading title文字との間は2文字空白
  
- ・参考文献引用の“右肩)”は、カンマ、ピリオドのあと
  
- ・図の解像度は十分なものに
- ・他の文献等から取った図表を含む場合、著作権委譲許可を著者自身で取ること。
- ・図・表キャプションの最後にピリオド
- ・キャプション文字は最初の単語の1文字目だけ大文字
- ・図キャプション Fig. x. (2文字空白) キャプション. (xは図番号, 図番号の後にピリオドが必要)
- ・表キャプションTable x. (2文字空白) キャプション. (xは表番号, 表番号の後にピリオドが必要)
- ・図・表キャプションは1行の場合はセンタリング, 複数行に渡る場合は 最後の行だけ左揃え, それ以外の行は両側揃え
- ・図・表キャプションと本文の間には1行空白行を入れる。
- ・表の最初と最後の横線は太線 それ以外は普通の太さの線。2重線にしない。  
**縦線は入れない (表の縦のカラムの区別がつきにくいときのみ縦線を入れる。)**
- ・図を参照する際、文章開始時は、“Figure x”と書く (文頭では“Fig. x”とは書かない。) 文中では“Fig. x”と書く。Fig.と図番号xの間に1文字空白をいれる。
- ・1つのFigureに複数の図があり、区別するときはFigure中に(a) (b)のように丸括弧で囲んだ識別アルファベットを入れる。本文中での参照は、文章開始時では、“Figure 1(a) (Figures 1(a) and 1(b))”, 文章中では、“Figs. 1(a) (Figs. 1(a) and 1(b))”

とする。

- 式を参照する際、文章開始時は、Equation (x) と書く。  
(文章中では、Eq. (x) と書く。Eq. と (x) の間に 1 文字空白を入れる。)
  - 表を参照する際、文章開始時、文章中ともに “Table x” と書き、省略しない。
  - 節を参照する際、文章開始時、文章中ともに “Section x” 等と書き、省略しない。
  - 式はセンタリング、式番号は右揃え丸括弧で(1)のように囲む。
- 
- 参考文献heading (References)はセンタリング
  - 参考文献  
著者名：全員書く：Family name, First nameのイニシャル。  
論文タイトルは各単語の 1 文字目は大文字（冠詞、前置詞は除く）  
Middle nameのイニシャル. とFirst nameのイニシャル. との間に 1 文字空白を入れる。  
3名以上の場合、最後の著者名とその前の著者名の間は，“, and” とする。  
6名以下の場合、著者名を全員記載する。  
著者名が6名よりも多い場合にのみ、6名分の著者名を記載し、以降をet al. と省略することは可能  
最後の著者名と論文名の間はコロン：  
日本語の参考文献の場合，“(in Japanese). ” を最後に入れる。

書籍の場合：

著者名：書籍名(イタリック)、出版社名、出版都市名、年、該当ページ。  
年は丸括弧で囲まない。

雑誌の場合：

著者名：論文名、雑誌名、巻号年ページは、**volume number** (year), pp. xx-yy.  
ists特集号の場合には、巻号年ページは、**volume number**, ists xx (year), pp. xx-yy. のようにissue numberも入れる。  
ページ番号の間は- (ダッシュ)  
論文名の各単語の 1 文字目は大文字  
論文名はダブルコーテーションで囲まない。  
雑誌名はイタリック、*Journal of XX* などの雑誌名は *J. XX* と略記表記する。  
volume numberはボールド、volume numberと(year)の間に 1 文字空白  
doiは不要  
page が存在しないオンライン論文の場合、article ID等を入れる。  
pp. とxx-yy. の間に 1 文字空白

proceedings (国際学会) の場合：

著者名：論文名、Proceedings of 大会名、開催都市名、開催国名、  
当該ページ(存在すれば) または論文番号, year.  
Proceedings of 大会名はイタリックにしない。  
Proceedingsが紙媒体で配布されていない場合、Proceedings of 大会名の部分は、大会名  
のみにする。  
年は丸括弧で囲まない。  
大会の開催回数(序数)のth は上付きにしない。  
AIAA paperの場合：大会開催場所は不要。著者名：論文名, AIAA Paper year-ID, year.  
と書く。

Web上の文献 (URL) の場合，“(accessed Month day, year). ” を最後に入れる。

Web上の文献で日本語の場合，“(in Japanese) (accessed Month day, year). ” の順番とする。